

宮城県理事・技術委員会 副委員長を拝命して

(株) ダイヤコンサルタント 東北支社長

秋山 純一



ごあいさつ

10年ぶりに（正確には9年）東北地質調査業協会に帰ってまいりました。

と申しますのも、私は、平成9年から平成19年度まで、技術委員会の委員を務めさせていただいておりました。その当時は、協会委員も任期10年までという定年制が新設され、平成18年以降10年選手は、10年勤続表彰をもらって委員を後進に譲ることになった訳です。今となってはその頃だけだったようで、当時委員をしていた人数が現在も委員をしており再会を果たしました。

10年前委員を辞めた頃は、こうして再び協会に参画できることは想像もしていなかったのですが、このたび理事として、技術副委員長として協会活動ができることは、大変嬉しく思っております。どうぞよろしく御願います。

1. 10年前の技術委員会の追憶

平成9年の9月のRCCM受験講座地質部門の講習会が最初に委員会に参加した日と記憶しております。当時は研修委員会です。ほかに技術委員会があり、技術委員会が主に地質調査技士の受験前講習会や試験、登録更新講習会など講習会を担当する委員会でした。

研修委員会は、当時「若手技術者セミナー」を主に担当しておりました。このセミナーは、若手のボーリング技術者、現場管理・報告書作成技術者が集まり、自由に他社の技術者と意見・情報交換することを主目的とし、現場見学会も入れて年2回開催しておりました。

何年だったかははっきりしませんが、協会も経費節減が迫られた関係で、合理化と委員総数を削減するため、平成13、14年頃に研修委員会と技術委員会が合併し、技術委員会1本となって現在に至っております。

合併するために合同で委員会を開いた折ですが、多分何かのテキストに載せる東北の地質の部分の編集の議題になった時、技術委員会のメンバーは地質学者の

ように高度な熱弁で白熱し、研修委員は何も言えず、参加していた私と現在の理事・技術委員長と二人であっけにと取られてポカンとしていたことが、今でも潰えることなく思い出します。

先に書いたRCCMの受験講習会（記述式問題の添削指導）も数年すると多くが合格したため、受験資格者（経験年数13年）が激減し、この講習会はなくなってしまいました。

若手セミナーは、最初の頃40名で締め切るほど盛況でしたが、近年、若手技術者も少なくなってしまうこともあり、現在では年齢に関係なく「技術者セミナー」として年1回開催しております。

2. 若手セミナーに参加していた若かりし頃

私は、技術士を目指し始めた平成2年頃から当時の上司が研修委員をしていたことから、技術士の勉強になるからと薦められ、若手セミナーにほぼ毎回参加していました。

平成2年といえますと前職の会社に入社して地元の山形県庄内地方に配属され10年間井戸工事、土木工事、配管工事等や水源調査、地盤調査等の現場代理人をした後、調査を専門にやれということで山形市の本社に単身赴任した年です。前年の元年11月には長女が生まれ、翌年平成3年11月に長男が誕生しました。この平成2年以降私の単身赴任は現在も続いています。

話を戻して、その頃の若手セミナーは、現場見学会もあったのですが、研修委員の方々が皆技術士で、その研修委員が講演や話題提供をしていました。その内容の理解度の高さ、高度さ、独創性には驚きと感激を覚え、どうしたらこのような人たちと同じに成れるのだろうか、早く追いついて研修委員の側になりたいと切に思ったものです。時を同じくして現在の委員長も修行時代だったようで、若手セミナーでいつも一緒になり、二人で同じことを話していました。今でも二人の思い出話になっているほどです。

若手セミナーでの研修のおかげで平成5年度の技術士試験（建設部門）に合格することが出来ました。受験当時36歳でした。勤務先には応用理学部門の技術士だけでしたので、若手セミナーで建設部門の技術士の方々の話が聞けたことは私を成長させてくれました。

3. 大好きなふるさと紹介

私の家は東に出羽三山（月山、湯殿山、羽黒山）、北に鳥海山を望む庄内平野の南部に位置する山形県鶴岡市（合併前は櫛引町）にあります。鶴岡市は人口約13万人、市の面積は東北で最も広く全国で7位です。

平成18年に仙台に来た時、緑の山が見えずビルしかないので、空が狭く圧迫感を感じ、庄内の広い空が恋しく思っていました。

出羽三山のほか、湯野浜温泉、温海温泉、藤沢周平の湯田川温泉などが有名ですが、ビールに欠かせない枝豆の「だだちゃ豆」と私の住む黒川地区に伝わる重要無形文化財の「黒川能」で有名な所です。

だだちゃ豆は鶴岡J Aの登録商標で、11品種が認定されていると学習しました。なかでも白山地区で栽培される「白山だだちゃ」という品種が最も美味しく高価で、種はその家に相伝で門外不出とされています。中山美穂のTVコマーシャルでこのだだちゃ豆が有名になり、種ドロボーがでるまでになってしまいました。私も家の裏の畑で作っています。種は門外不出ですから手に入らないのですが、私の知る限りでは庄内1号～7号まで市販されており、私は庄内3号と5号を中出、奥出として植えています。登録商標ですからだだちゃ豆とは言えませんが、庄内3号が白山だだちゃに近い種です。会社の人にも味見をしてもらいましたが大変好評です。なお、平成17年頃の『大地』に「地質調査屋がだだちゃ豆作ったど〜!」というタイトルで枝豆栽培奮闘記のようなものを寄稿しております。

黒川能は毎年2月1日に夜通し朝まで演じられ、1日～2日の「王祇祭」として行われます。役者は地元の農民で、猿楽がそのまま残っているので重要無形文化財になっているらしく、500年説と700年説があります。現在では上座と下座に分かれて各当屋の家で舞われ、翌2日に氏神の春日神社で奉納舞が行われます。振舞いの主食は「当屋豆腐」と呼ばれ、豆腐を焼いた後に凍みさせたもので、醤油と日本酒で作った汁物（下座）又は煮しめ（上座）を山椒味で食べます。私も世帯主が集まる「大人衆」という場に紋付袴に袴をつけて行き、この豆腐と日

本酒の振舞いを受けます。この豆腐焼きは薪を使い村総出で行われ、毎年NHKでもニュースにでます。このため黒川能は「豆腐祭」とも言われます。

王祇祭は能だけでなく喧嘩祭りとも言われ、朝じんじょう（御神体を神社に運び入れる）、布巻き、酒比べ（正式名でないかも）、棚上がり、餅切り、の5競技を上座と下座で競争し、その勝ち負けでその年の豊作、不作を占います。競争物に村の若衆が参加し、相手の選手の妨害をしてもよく、「うお〜!」と大声と足を踏み鳴らして相手を威嚇しながら競い、時には揉合いになり着物が裂けることもしょっちゅうです。黒川能を観に全国や外人も訪れますが、1日の能を観て満足して帰る人が多く、是非2日の行事も観て「王祇祭」を楽しんで行ってもらいたいものです。

なお、この祭りは朝4時からスタッフは作業開始ですが、この時から祭りが終わるまで無尽蔵に熱燗の日本酒が振舞われます。黒川の人が、酒が強い所以と言えるでしょう。

4. これからの協会と技術者へ

当協会も一般社団法人になり、社会的人格を持つことになりました。このことを自覚し、これまで以上に協会のなすべきことに尽力して行きたいと思います。特に、現在、仙台工業高校への講義を行っています。担い手の育成の一環として、また、地質調査業を知ってもらうこと、自分が住んでいる所がどんな地盤でどんな災害の危険性があるのかに興味を持っていただくことを目的に、小中高への出前講座が効果的だと思いますので、実施に向け検討・活動したいと考えております。

地質調査業は、何と言っても技術がしっかりしていなくては話になりません。この意味で技術委員会の活動も技術力の維持・向上のため、アイデアを持って取り組んで行きたいと考えております。しかし、私も還暦を迎えましたので、新任したばかりですが、後進に傳承することも考えなくてはなりません。

私が修行中に若手セミナーに参加し、研修委員の人達や他社の同年代の人達と何でこんなに差があるのだろうと毎年痛感していました。夜の意見交換会でそんな人達と話すうちに、普段の業務の密度が違うんだということに気付きました。

若手の皆さんは、最初の10年間は目の前の仕事に全力投球で取り組み徹底的に足腰を鍛えてほしい。さすれば後に飛躍的な成長を遂げることができます。

私は任命される限り協会の一員として労を惜しまず務めたいと思いますので宜しく御願います。〈以上〉